令和元年度　北海道八雲養護学校学校評議員会だより

令和元年度北海道八雲養護学校第２回学校評議員会を２月 13 日（木）に本校校長室において開催いたしました。

第２回学校評議員会では、本校校長より挨拶をいただき、その後教頭より①今年度の取組の成果について②学校評価の結果と改善に向けて③来年度の移転に向けて④令和２年度の学校評議員及び学校評議員会の実施について等説明を行い、その後意見交換を行いました。各評議員から多くの意見をいただき、とても有意義な会となりました。

＜①今年度の取組の成果について＞

評議員からの意見

・八雲養護学校で行っているｅスポーツは、体育として行っているのか。

回答）本校では、体育として位置付けるだけではなく、病弱教育である本校の児童生徒にとって、自分たちも野球やサッカーなどスポーツに参加したいという気持ちを叶えるツールの一つとして取組を行っている。

・卒業生である評議員からは、エスポラーダ北海道の監督に来ていただいたことで、あまり経験のできないことができることで、今までできなかったチームで協力することができるようになった。ｅスポーツが盛んになってくれば、病院の私たちにとって追い風となるとの意見をいただいた。

・来年度も８月までの間、今年と同様に交流を行ってほしい。小学校・中学校にとってはプラスとなっていると教育委員会では考えている。

回答）本校は同世代の集団を作ることが難しいため、近隣の学校等と交流及び共同学習を行うことは大切であり、本校にとってもプラスである。

・ロボットプログラミング選手権は今年から始めたものか。

回答）来年度から小学校でプログラミング教育が導入されることを踏まえ、全国の病弱教育の学校で「ロボットプログラミング選手権（全国大会）」を開催した。本校も参加し、北海道・東北予選の会場を引き受けた。今後、毎年継続して開催することを目指している。

＜②学校評価の結果と改善に向けて＞

評議員からの意見

・職員と生徒の評価で「将来の可能性」に関する項目で同じような評価になっていることは、子どもたちと先生方が同じ感覚ということで、課題がはっきりしたという面でよいと思う。これからどうしていくかが課題である。

・子どもたちが学校に対して高い評価を出していることは、とても良いことである。

・英検を受けている生徒がいることはとても良いことだと思う。英検を受けた生徒が、病棟に帰って「難しかったが、またやりたい」と言っていた。学校で取り組んでいる授業をきっかけに何事にも興味をもつようになると思う。

＜最後に＞

いよいよ移転の年となり、様々な面で八雲町との関わりが残すところ数ヶ月となりました。今年度見えてきた課題を整理し、令和２年度に向けて取組を進めていきます。この 62 年間八雲町とともに創り上げてきた活動と伝統を引き継ぎながら、新たな学校への運営に生かしていきたいと思います。これからの８月までの間は、八雲町の皆様と子どもたちのために、支援をいただきながら、日々の学習や活動に励んでいきますので、あと少しだけ力を貸してください。